



第12回

平泉寺白山神社 (三十三式年祭)

(福井県勝山市平泉寺町平泉寺)

鳥越一向一揆歴史館友の会/北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は勝山市の平泉寺白山神社を紹介し、養老元年(717)泰澄大師が創建し、白山登拝道の三馬場のひとつ越前馬場の中心として栄えました。泰澄は越知山で修行中に女神の招きに応じて御手洗池にたどり着き、泉の中の影向石に出現した女神が白山登拝を促しました。泰澄は二人の行者、浄定行者と伏行者を伴って登拝し、山頂で千日におよぶ修行のち下山して御手洗池のほとりに白山大神を祀る祠を建てたというのが始まりの物語です。



白山神社御前峰御本社 御開帳風景

室町時代の最盛時には四十八社三十六堂社領九万石六千坊と称されました。天正2年(1574)、対立する一向一揆が立て籠る村岡山を攻めている隙を突かれて本覚寺が率いる一揆勢別働隊により全山焼亡しました。

江戸時代は泰澄大師白山開山の由緒等をもとに幕府から白山山頂での祭礼を公認され、山麓境界の加賀側との争論も大方主張を認められていましたが、明治4年(1871)白山は加賀に編入され、平泉寺の僧侶は復飾して白山神社の神職となりました。

白山神社境内は昭和10年に「白山平泉寺城跡」として国史跡となりました。北谷・南谷などの発掘調査の成果を受けて平成9年に「白山平泉寺旧境内」と改称し、史跡指定範囲は10倍以上に拡大しました。南谷では発掘された石畳道や石垣、一画に坊院の門・土塀が復元整備されています。

令和7年は33年に1度の式年大祭を迎え5月23日から25日まで御神像の御開帳と奉祝イベントが行なわれ、3日間で約22万人が参拝しました。勝山城博物館で開催された「白山と平泉寺を訪れた人びと」(4月26日~8月31日)には、大正15年(1926)の三十三式年大祭ポスターが展示されていました。少なくとも幕末頃から32、3年に1度の形式となったようです。前回は平成4年(1992)に白山国立公園昇格30周年記念式典と同時開催で5日間に約14万8千人が参拝しました。私は2日目の朝一番のシャトルバスに乗り、二の鳥居辺りから行列に並んで約40分かけ御前峰御本社、越南知社、別山社を参拝しました。宝物館を鑑賞し、僧兵行列を見送って帰途に着いた頃には御開帳に並ぶ人々の行列はまほろば前を越えて菩提林の方まで延びていました。僧兵行列が目の前を通り過ぎるのを眺めながら、一向一揆と争った頃はこの姿の僧兵達が白山平泉寺に大勢居住し、危急の時と団結して必死に守っていた様子を思い浮かべていました。一生に一度の貴重な体験でした。

参考資料
平泉寺白山神社
ホームページ

広報かつやま
2025年1月号

勝山城博物館
F&S・展示目録
ほか



三十三式年祭 僧兵行列



南谷坊院跡の復元された門・塀